

新約聖書 マタイによる福音書 5章 13節—20節（新共同訳）

¹³ 「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。¹⁴ あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。¹⁵ また、ともし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。¹⁶ そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

¹⁷ 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである。¹⁸ はっきり言っておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。¹⁹ だから、これらの最も小さな揃を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。²⁰ 言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」

※第1朗読と第2朗読は末尾に掲載

説教「地の塩」

本日の福音書は、イエスが人々に「あなたがたは地の塩である」と告げる場面から始まります（マタイ 5:13）。

塩には、清めの意味があります。旧約聖書のレビ記 2章 13節には「献げ物にはすべて塩をかけてささげよ」とあります。それは、塩によって献げ物を清くするためです。

マルティン・ルターが「塩は塩のために存在するのでない」と言ったように、塩は他のもののために存在します。塩は他のものを清め、腐敗を防ぎ、塩味をつける働きをします。

旧約のエゼキエル書では、生まれた赤ん坊を塩でこすって清めることが述べられています（エゼキエル 16:4）。そして、イエスが言う地の塩とは、罪がはびこるこの世において、それを清める力を意味します。

そしてイエスはこう言います。「だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう」（マタイ 5:13）。少し分かりにくいくらいの表現ですが、これは、塩が塩でなくなることはありえないという意味だと思います。塩は、どこまでも塩であり続けるのです。

ここでは、あなたがたは地の塩になりなさい、と言われているわけではありません。あなたがたは地の塩「である」とはっきり宣言されています（マタイ 5:13）。キリストとつながる者は、その存在のすべてをかけて地の塩であると主イエスは言っているのです。

イエス・キリストのこの言葉は、私たちが地の塩でなければならない、地の塩になりなさいという戒めではありません。この言葉は、キリストとつながった私たちが、全存在において地の塩であるという福音と祝福が語られているのです。

さらにイエスは「あなたがたは世の光である」と言います（マタイ 5:14）。塩が塩のために存在するのではなくと同様に、光も光のために存在するではありません。光の役割は、闇を照らし、他者を照らすことです。そして世の光は、隠れることなく明るみに出されなければなりません。そのことをイエスは「山の上にある町は、隠れることができない」というたとえを用いて語ります（マタイ 5:14）。

光の役割は、その光が隠されることなく、すべてを照らすことだということについて、イエスは日常生活に基づいたたとえでこう語ります。「もし火をともして升の下に置く者はいない。燭台の上に置く」（マタイ 5:15）。

人々の生活の中で、明かりが効果的に灯されるように、もし火を燭台の上に置き、部屋中が明るくなるようにしました。光輝くともし火を、穀物を計量する升の下に置いて隠すようなことはしません。

それと同じように、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」とイエスは言うのです（マタイ 5:16）。それは「人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるため」なのです（マタイ 5:16）。宗教改革者カルヴァンは、キリスト者の生涯は「神の栄光のため」のものであると言いました。

本日の福音書には、「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」という福音に続き、「キリストは律法や預言者、すなわち旧約聖書を廃止するためではなく、完成するために来た」ことが記されています（マタイ 5:17）。

イエスはこう言います。「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」（マタイ 5:17）。

ここでの「律法や預言者」とは、旧約聖書を意味します。元来、律法とは、人間に対する神の要求です。この要求は、十戒に代表されます（出 20:1-17、申 5:1-21）。けれども人々は、律法の字面だけを見て、その深い意味を探りえずにいました。イエスは、文字の奥にある律法の真の意味を明らかにしました。これが律法や預言者を完成する、ということの意味です。

イエスは、どのようにして律法を完成するのでしょうか。それを知るには、主イエス・キリストが「わたしが来た」と言う時、主イエスがこの地上で何を行ったのかを思い起こさねばなりません（マタイ 5:17）。

イエスの生涯におけるわざを一言で言うなら、「愛」という言葉に尽きるでしょう。ローマの信徒への手紙 13 章 10 節にあるように「愛は律法を全うする」のです。

イエス・キリストの愛にうながされて、私たち自身もキリストの愛に生き始めるここと。それが律法の深い意義であり、律法の精神です。

旧約聖書のほんのわずかな一句でも、イエスの到来によって「すべてのことが実現」し、天地が消え去る、この世の終わりの時に至るまで、一点一画もなくならないで、そのまま残るのです（マタイ 5:18）。

旧約聖書を完成させるイエスとは、理想と現実とを統合するイエスです。主イエスにあっては、旧約聖書が理想として説くことは、それがそのまま現実化されるのです。

そのことは、旧約聖書の一点一画にいたるまで、ごくわずかなことでもおろそかにされず、それを完全に実現することが、イエス・キリストの御名によって行われるのです。天の国とは、理想の実現です。理想と現実がひとつとなるのが、天の国です。

私たちの日常生活における、ほんの細かいことに至るまで、なかなか自分の思い通りに行かないことが多いと思います。

しかし、自分が思い通りにしたいことと、理想とは、同じではないのだと思います。

真の理想とは、神が喜ぶ、神の御心に沿ったものなのです。

私たちは、この人生において理想を持ち続けましょう。

日常生活における、少々自分が思い通りにならない些末なことは目をつぶり、真の理想に眼差しを向け続けましょう。

「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」（マタイ 5:13、5:14）。これらの「地の塩」と「世の光」の二つの言葉で分かりやすいのは「世の光」の方だと思います。

しかし、一見ピンと来ないかもしれない「あなたがたは地の塩である」という言葉は、実のところはものすごい褒め言葉なのだと感じます（マタイ 5:13）。

「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」（マタイ 5:13、5:14）。

主イエス・キリストの私たちへの慈愛と期待が込められたこれらの言葉をいつも覚えながら、私たちは真の理想をもって、この地上の時を共に歩んで行きましょう。

天の父なる神様。私たちは、あなたの御心に適う者として造られています。私たちが、真の自分の在り方に気づき、与えられているあなたの道を歩んでいくことができますように。御子イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 イザヤ書 58章1節—9節a（新共同訳）

¹喉をからして叫べ、黙すな／声をあげよ、角笛のように。わたしの民に、その背きを／ヤコブの家に、その罪を告げよ。²彼らが日々わたしを尋ね求め／わたしの道を知ろうと望むように。恵みの業を行い、神の裁きを捨てない民として／彼らがわたしの正しい裁きを尋ね／神に近くあることを望むように。

³何故あなたはわたしたちの断食を顧みず／苦行しても認めてくださらなかつたのか。見よ、断食の日にお前たちはしたい事をし／お前たちのために労する人々を追い使う。⁴見よ／お前たちは断食しながら争いといさかいを起こし／神に逆らって、こぶしを振るう。お前たちが今しているような断食によっては／お前たちの声が天で聞かれることはない。⁵そのようなものがわたしの選ぶ断食／苦行の日であろうか。葦のように頭を垂れ、粗布を敷き、灰をまくこと／それを、お前は断食と呼び／主に喜ばれる日と呼ぶのか。

⁶わたしの選ぶ断食とはこれではないか。悪による束縛を断ち、輒の結び目をほどいて／虐げられた人を解放し、輒をことごとく折ること。⁷更に、飢えた人にあなたのパンを裂き与え／さまよう貧しい人を家に招き入れ／裸の人に会えば衣を着せかけ／同胞に助けを惜しまないこと。⁸そうすれば、あなたの光は曙のように射し出で／あなたの傷は速やかにいやされる。あなたの正義があなたを先導し／主の栄光があなたのしんがりを守る。⁹あなたが呼べば主は答え／あなたが叫べば／「わたしはここにいる」と言われる。

新約聖書 コリントの信徒への手紙 — 2章1節—12節（新共同訳）

¹兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。²なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。³そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。⁴わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“靈”と力の証明によるものでした。⁵それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

⁶しかし、わたしたちは、信仰に成熟した人たちの間では知恵を語ります。それはこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく支配者たちの知恵でもありません。⁷わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界の始まる前から定めておられたものです。⁸この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。⁹しかし、このことは、

「目が見もせず、耳が聞きもせず、／人の心に思い浮かびもしなかったことを、／神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。¹⁰わたしたちには、神が“靈”によってそのことを明らかに示してくださいました。“靈”は一切のことを、神の深みさえも究めます。人の内にある靈以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の靈以外に神のことを知る者はいません。¹²わたしたちは、世の靈ではなく、神からの靈を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。

教会讃美歌 308 番「冠ささげ」、416 番「わがゆくみち」、337 番「やすかれ」。